

令和5年度 主要事業概要

～ふるさと三陸の創造～



岩手県沿岸広域振興局土木部

沿岸広域振興局土木部主要事業概要 もくじ

1	管理施設の現況	1
2	組織、職員数及び予算概要	2～3
3	主要事業箇所図	4
4	主要事業	
(1)	【道路改良】(主)釜石遠野線 中村～青の木	5～6
(2)	【道路環境改善事業】(橋梁補修・補強)(一)大槌小槌線 古廟橋	7
(3)	【道路環境改善事業】(災害防除)(主)大槌小国線 金澤～土坂峠	8
(4)	【道路環境改善事業】(災害防除)(主)釜石遠野線 橋野～笛吹峠	9
(5)	【急傾斜地崩壊対策】急傾斜地崩壊対策事業 大渡(2)－3	10
(6)	【砂防事業(防安交・重点)】天神の沢(3)、(4)	11
(7)	【河川維持】河川海岸等維持修繕事業ほか 河道掘削(管内)	12
(8)	【台風第19号】災害関連緊急砂防事業ほか(砂防)	13
(9)	【県営住宅(災害公営住宅含む)管理状況]	14～15
5	復興の状況	
(1)	津波防災施設の復旧・整備	16
(2)	水門・陸閘自動閉鎖システムの整備	17～18
(3)	根浜海岸 砂浜再生	19
(4)	釜石港 ガントリークレーン	20

1 管理施設の現況

■ 道路現況

【数値：(岩手の道路現況)[令和2年4月1日]】

路線番号	路線名	実延長 (m)	改良延長 5.5m以上(m)	改良率	舗装率 (軽舗装含)
283	国道283号	22,517.1	20,764.0	92.2%	100.0%
	小計	22,517.1	20,764.0	92.2%	100.0%
4	主)釜石港線	1,366.0	1,366.0	100.0%	100.0%
26	主)大槌小国線	30,783.9	26,202.3	85.1%	100.0%
35	主)釜石遠野線	26,193.8	21,372.4	81.6%	100.0%
	小計	58,343.7	48,940.7	83.9%	100.0%
145	一)大槌停車場線	85.2	85.2	100.0%	100.0%
146	一)鶴住居停車場線	46.4	46.4	100.0%	100.0%
167	一)釜石住田線	8,406.8	619.2	7.4%	100.0%
193	一)唐丹日頃市線	12,398.0	1,885.3	15.2%	100.0%
231	一)吉里吉里釜石線	10,010.0	4,310.1	43.1%	100.0%
242	一)水海大渡線	7,223.1	3,306.5	45.8%	100.0%
249	一)桜峠平田線	18,084.5	5,055.7	28.0%	100.0%
250	一)吉浜上荒川線	8,525.0	1,443.3	16.9%	100.0%
280	一)大槌小釜線	1,876.8	1,876.8	100.0%	100.0%
	小計	66,655.8	18,628.5	27.9%	100.0%
	合計	147,516.6	88,333.2	59.9%	100.0%

主要地方道=(主) 一般県道=(一)

■ 河川現況

【数値：令和元年10月1日時点】

番号	河川名	指定延長 (Km)	流域面積 (Km ²)	計画高水流量 (m ³ /S)	比流量 (m ³ /S/Km ²)
3	甲子川	20.700	137.5	950	6.9
16	片岸川	3.819	29.6	300	10.1
17	鶴住居川	23.127	156.1	1,000	6.4
18	小釜川	11.782	62.7	420	6.7
19	大槌川	12.500	111.5	850	7.6
48	小川川	7.050	37.0	200	11.9
67	水海川	3.900	16.4	180	11.0
68	長内川	3.300	26.5	170	6.4
88	能舟木川	1.500	5.4	41	7.6
94	沢楡川	1.150	20.3	200	9.9
98	熊野川	8.000	30.6	290	9.5
99	北川目川	0.600	—	—	—
100	中川目川	1.300	—	—	—
	小計	98.728	633.6	—	—

■ 海岸現況

【数値：令和5年4月1日時点】

区分	地区海岸名	保全区域延長 (m)	保全区域面積 (m ²)	堤防高 (m)
国土交通 省所管海 岸	鶴住居地区海岸(片岸地先海岸)	820	57,443	T.P.+14.5
	鶴住居地区海岸(根浜地先海岸)	420	25,584	T.P.+5.6
	両石地区海岸(水海地先海岸)	1,340	138,165	T.P.+12.0
	平田地区海岸(青出浜地先海岸)	120	1,400	—
	小白浜地区海岸	511.9	45,791	T.P.+14.5
	釜石港海岸(須賀地区海岸)	1,010	58,096	T.P.+6.1
	釜石港海岸(大平地区海岸)	867	36,513	T.P.+6.1
	釜石港海岸(湾口地区海岸)	2,362	1,100,238	—(湾防T.P.+6.0)
	釜石港海岸(泉地区海岸)	—	—	—

■ 釜石港(現有公共係留施設)

【数値：令和元年10月1日時点】

地区名	施設名	バース	延長(m)	対象船舶
須賀	防潮堤		994.6	
	岸壁(-11m)	1	190.0	18,000D/W
	岸壁(-7.5m)	1	130.0	5,000D/W
	耐震強化岸壁(-7.5m)	1	130.0	5,000D/W
	岸壁(-4.5m)	4	240.0	1,000D/W
	物揚場(-4.0m)		718.5	
	物揚場(-3.0m)		91.5	
	物揚場(-2.0m)		349.5	
大平	物揚場(-1.5m)		100.0	
	防潮堤		852.7	

■ 砂防指定地

釜石市 84地区 大槌町24地区 合計108地区 【数値：令和5年3月31日時点】

■ 急傾斜地崩壊危険区域

釜石市 71地区 大槌町13地区 合計84地区 【数値：令和5年3月31日時点】

■ 日向ダム

【出典：「いわてのダム(平成17年3月)岩手県」】

名称	形式	堤高	堤頂長	堤体積	設計洪水流量
日向ダム	重力式コンクリートダム	56.5m	290m	241,150m ³	630m ³ /sec
		流域面積	湛水面積	総貯水容量	
		22.0km ²	0.29km ²	5,700,000m ³	

■ 県営住宅

13団地 828戸 【数値：令和5年3月31日時点】

2 組織、職員数及び予算概要

① 組織

企画調整グループ	土木企画、建設リサイクル
管理課	庶務、委託契約、建設業許可、道路・河川・港湾の占用許可
用地課	土地の取得・補償
道路整備課	道路建設工事、道路維持・修繕
河川港湾課	河川・港湾維持修繕、日向ダム、海岸・水門陸閘
復興まちづくり課	砂防・急傾斜、土砂災害防止法
建築指導課	建築物の審査・検査・指導・取締り

② 職員数 (令和5年4月1日時点)

	職員数
部長	1名
副部長	1名
企画調整グループ	2名
管理課	7名
用地課	3名
道路整備課	5名
河川港湾課	9名
復興まちづくり課	5名
建築指導課	2名
計	35名

③ 予算概要 (百万円)

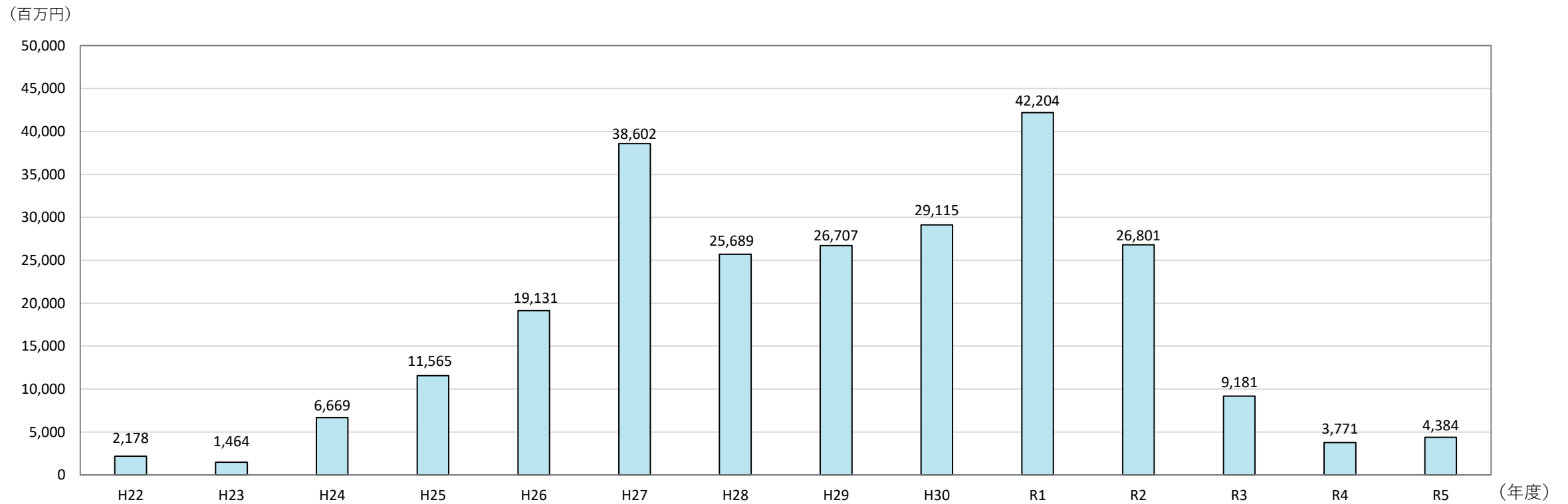
予算	R5年度 当初	R4年度 当初	増減	増減率
公共事業 (うち災害復旧費)	4,384 (0)	3,771 (111)	+613 (▲111)	+16.3% (▲100%)

④ 予算額の推移

(百万円)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
予算額	2,178	1,464	6,669	11,565	19,131	38,602	25,689	26,707	29,115	42,204	26,801	9,181	3,771	4,384

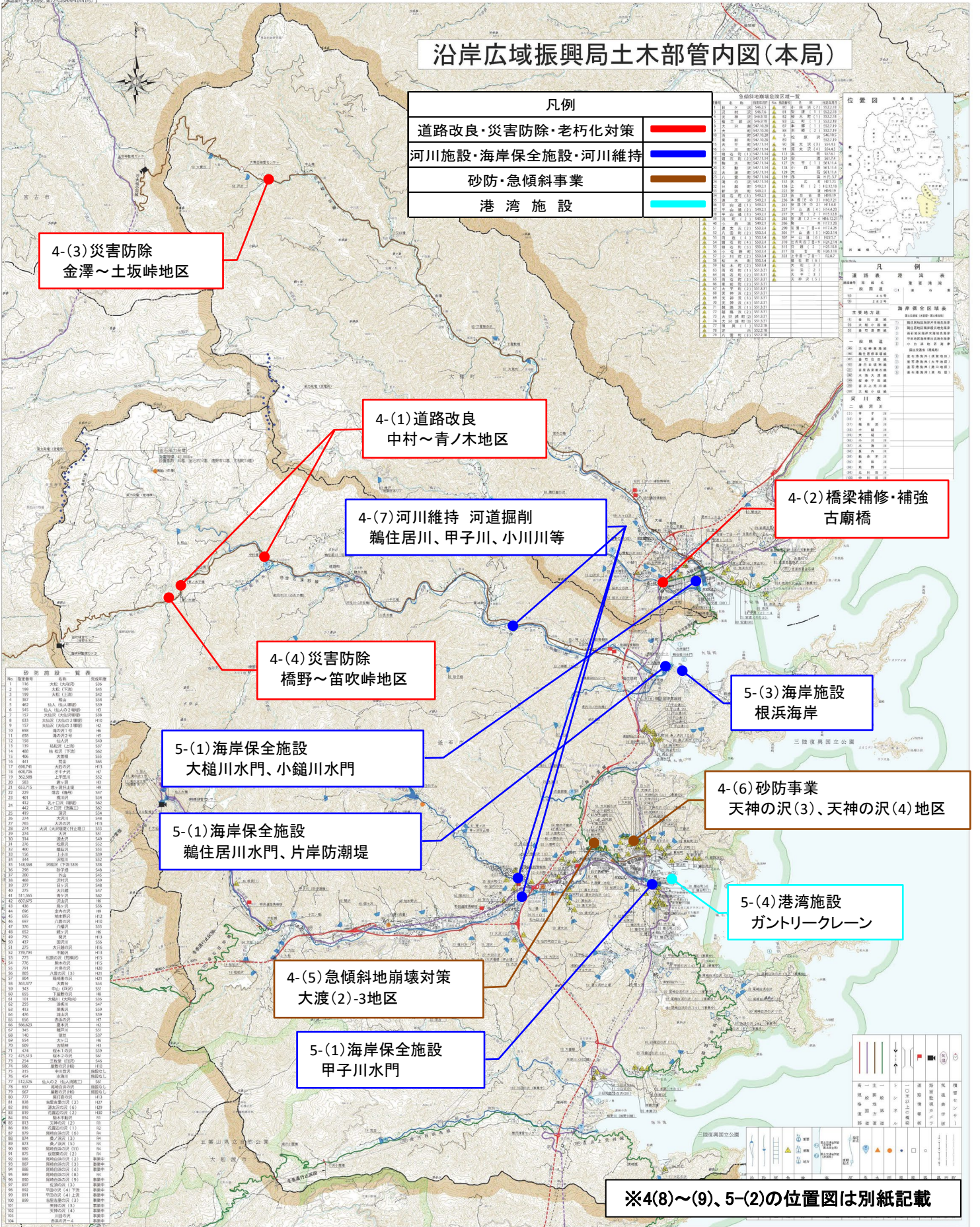
※ 当初予算ベース（当初予算＋前年度からの繰越（事故繰越含む））



沿岸広域振興局土木部（釜石管内）公共事業予算額の推移（通常事業+災害）

3 主要事業箇所図

この図書の作成に当たっては、国土利用計画を基礎とし、国勢調査及び2万5千分の1地形図を参考に、



4-(1) 道路改良 (主)釜石遠野線 中村～青ノ木(なかむら～あおのき)地区

○事業目的

主要地方道釜石遠野線は、釜石市鶴住居町を起点とし遠野市青笹町に至る路線であり、主要地方道として地域間を移動する通行機能と地域住民の通勤・通学路として利用されている。

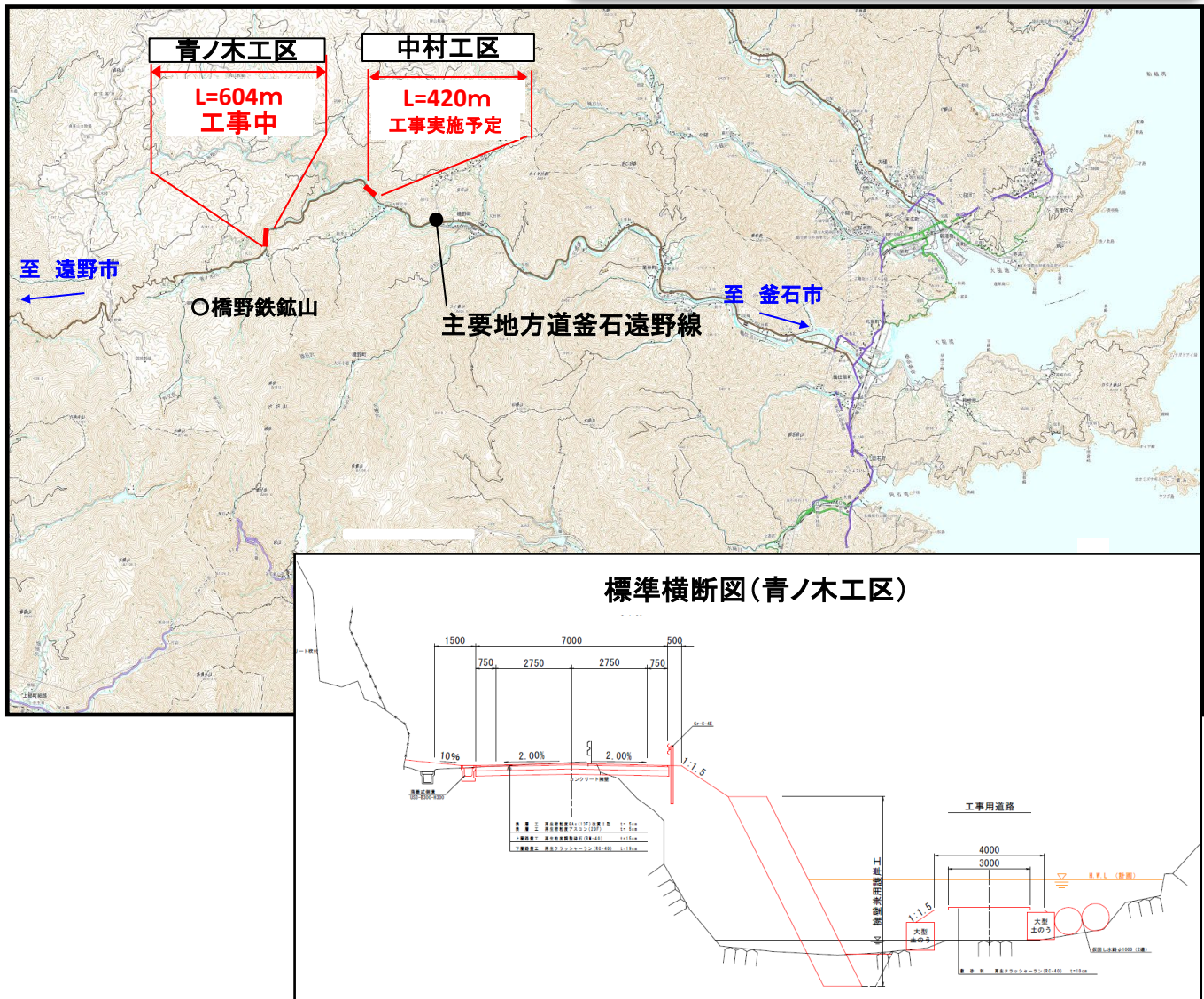
当路線の中で、中村～青ノ木地区の一部区間は幅員狭小で2車線が確保できず、大型車同士のすれ違いが困難であり交通に支障を及ぼしている。このため、この区間を道路改良することにより、道路機能の改善を図り、大型車両の通行の安全も確保できることから、世界遺産「橋野鉄鉱山」への観光ルートとしても大いに活用されることが期待される。

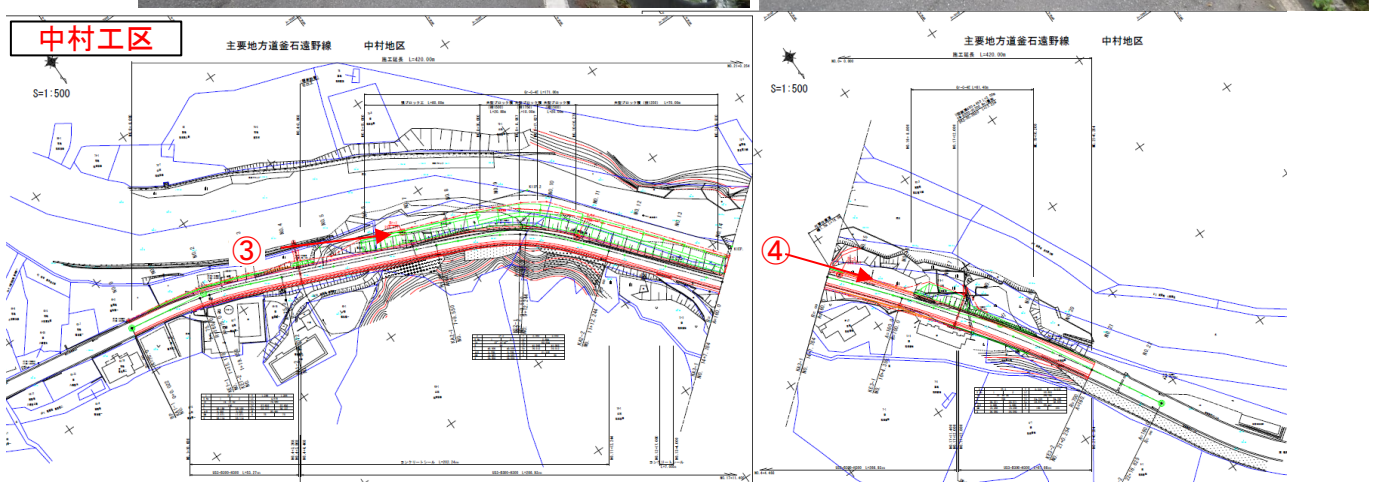
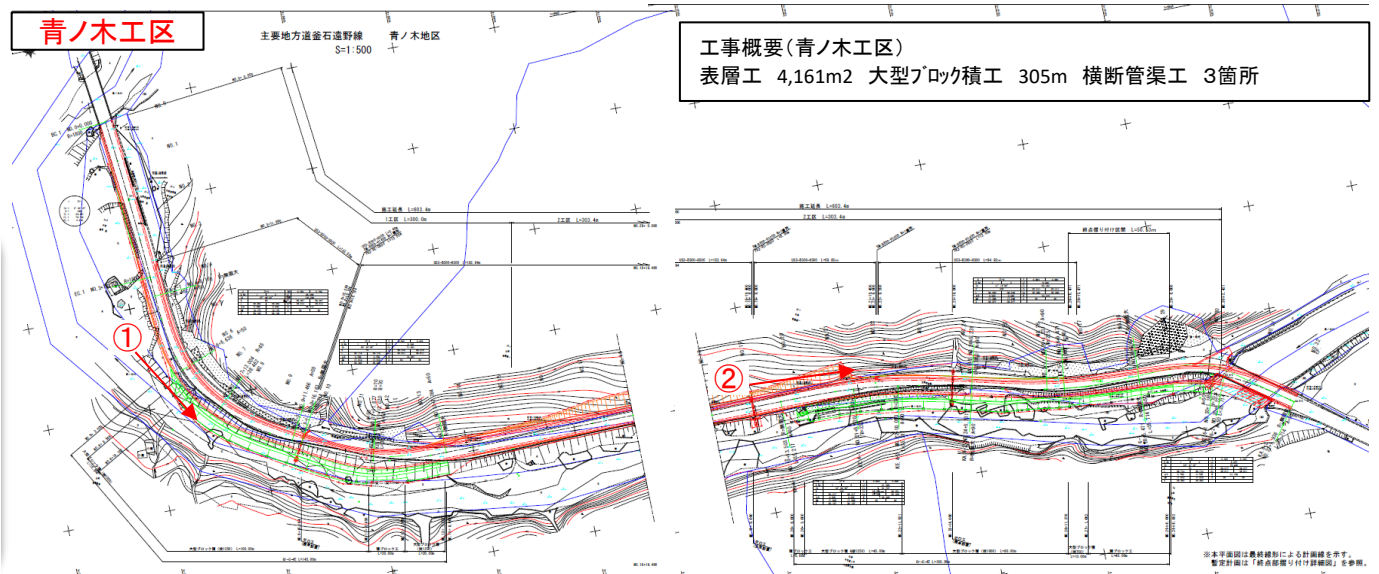
○設計条件

- ・道路区分 第3種第4級
- ・設計速度 $V = 40 \text{ km/h}$

○計画概要

- ・施行延長 中村地区 420m
青ノ木地区 604m
- ・道路幅員 $W = 5.5 (7.0) \text{ m}$
- ・施工期間 令和2年度～令和7年度(予定)





4-(2) 道路環境改善事業 (一)大槌小槌線 古廟橋(こびょうはし)

○事業目的

一般県道大槌小槌線は、大槌町の中心市街地を通る道路であり、緊急輸送道路（二次）に指定されている。さらに、大槌町中心部から三陸縦貫自動車道I.Cや沿岸部の主要漁港である大槌漁港などへのアクセス道路として重要な役割を担っている。

当該路線に架かる「古廟橋」は、建設後50年以上が経過し老朽化による断面欠損、橋脚部のひび割れや支承ゴムの変形など多くの損傷が確認されている。

また、耐震化が未了のため、橋梁補修と合わせ耐震補強工事を行い、道路利用者の安全で安心な通行の確保を図るものである。

○ 橋梁諸元

- ・ 橋 長 63.95m
- ・ 幅員9.2m
- ・ 建 設 1966年（昭和41年）
※50年以上経過
- ・ 交通量 6,921台/日（H27交通センサス）
- ・ その他 緊急輸送道路（二次）指定

○ 工事概要

○上部工工事

- ・ 落橋防止装置工 1式
- ・ ひび割れ補修工 1式
- ・ 親柱補修工 1式

○下部工工事

- ・ 橋脚巻立工 1式



4-(3) 道路環境改善事業 (主)大槌小国線 金澤(かなざわ)～土坂峠(つちさかとうげ)

○事業目的

主要地方道大槌小国線は、上閉伊郡大槌町を起点とし宮古市小国に至る路線であり、主要地方道として地域間を移動する通行機能と地域住民の通勤・通学路として利用されているとともに、緊急輸送道路（2次）に位置付けられ地域に欠かせない路線である。

当該路線において、法面から道路への落石が確認されているほか、法面には今後道路へ落下する恐れのある露岩や浮石等が多数存在しており、放置することによって落石による事故等一般交通への大きな影響が懸念されることから、落石対策を目的として防護工や予防工を行い、道路利用者の安全で安心な通行の確保を図るものである。

○計画概要

- ・事業延長 L = 750 m
- ・計画幅員 W = 5.5 (8.0) m
- ・事業期間 平成31年度～令和7年度



4-(4) 道路環境改善事業 (主)釜石遠野線 橋野(はしの)～笛吹峠(ふえふきとうげ)

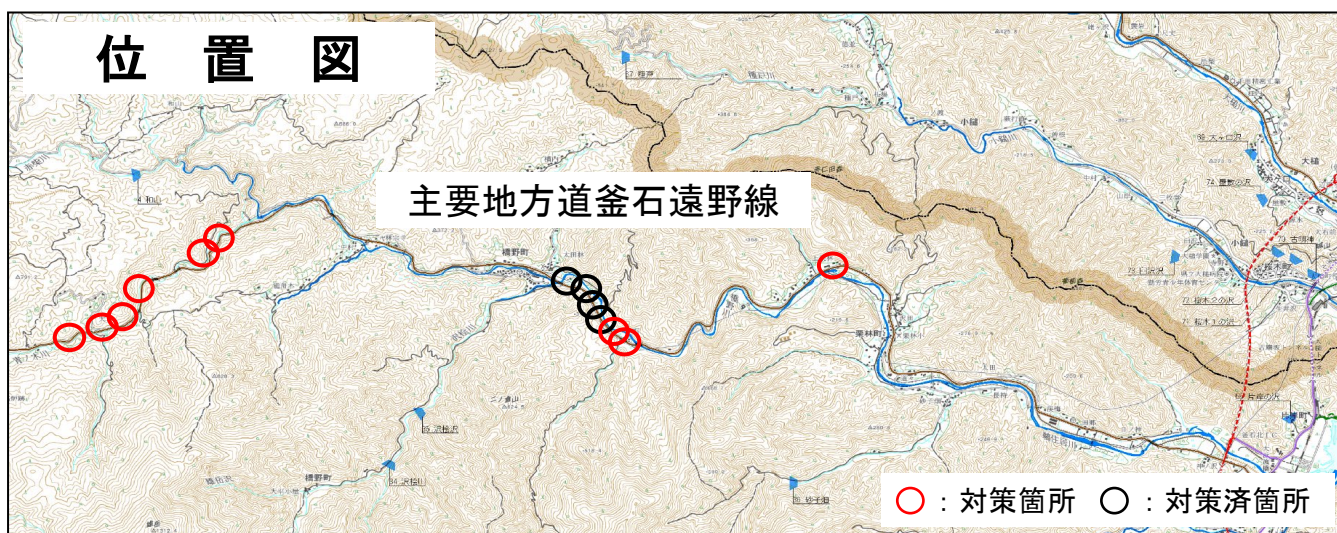
○事業目的

主要地方道釜石遠野線は、釜石市鶴住居町を起点とし遠野市青笹町に至る路線であり、主要地方道として地域間を移動する通行機能と地域住民の通勤・通学路として利用されている。さらに、世界遺産「橋野鉄鉱山」への観光ルートとしても活用されていることから、重要な路線である。

当該路線において、法面から道路への落石が確認されているほか、法面には今後道路へ落下する恐れのある露岩や浮石等が多数存在しており、放置することによって落石による事故等一般交通への大きな影響が懸念されることから、落石対策を目的として防護工や予防工を行い、道路利用者の安全で安心な通行の確保を図るものである。

○計画概要

- ・事業延長 L = 577 m
- ・計画幅員 W = 5.5 (7.0) m
- ・事業期間 平成26年度～令和7年度



4-(5) 急傾斜地崩壊対策事業 大渡(2)-3地区

○事業目的

当該箇所は、保全対象に人家17戸、地域防災計画の緊急避難場所に指定されている駒木不動沢が含まれる、がけ高56m、勾配49度の急傾斜地です。斜面は全体的に表土で覆われ、露岩部では風化・亀裂が著しく、今後の豪雨によって斜面崩壊の危険性があります。このため、早急に急傾斜地崩壊対策施設を整備し、地域の安全の確保を図るものです。

○計画概要

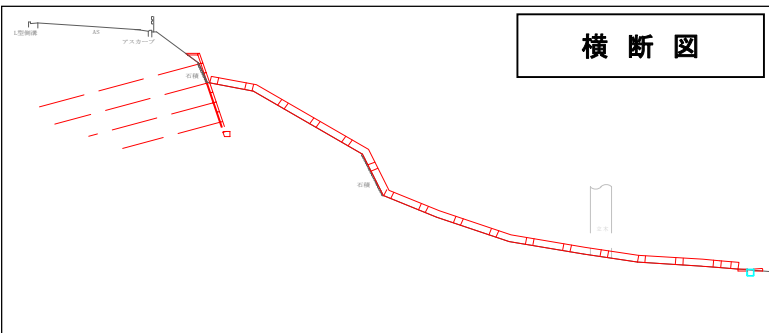
保全対象：人家17戸
駒木不動沢（地域防災計画に記載のある津波時緊急避難場所）

事業費：3億6,400万円
事業期間：令和4年度～令和8年度
工事概要：全体延長 L=152m
地山補強土工 L=10m
現場吹付法砕工 A=4,670m²

位置図



横断図



4-(6) 砂防事業 天神の沢(3)・(4)地区

○事業目的

天神の沢(3)及び天神の沢(4)は、土石流危険渓流であり、溪岸侵食が進行し、溪床には不安定土砂が堆積しています。

保全対象には、人家、国道、市道があるほか、土石流災害警戒区域内には釜石市役所新庁舎の建設が予定されており、土石流災害が発生した場合は、危機管理拠点としての機能が喪失するなど甚大な被害の発生に繋がるおそれがあります。

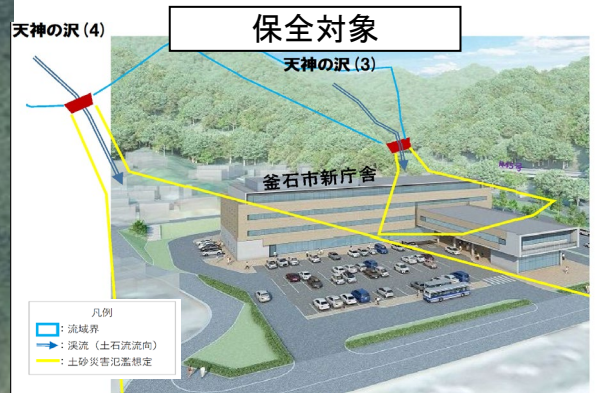
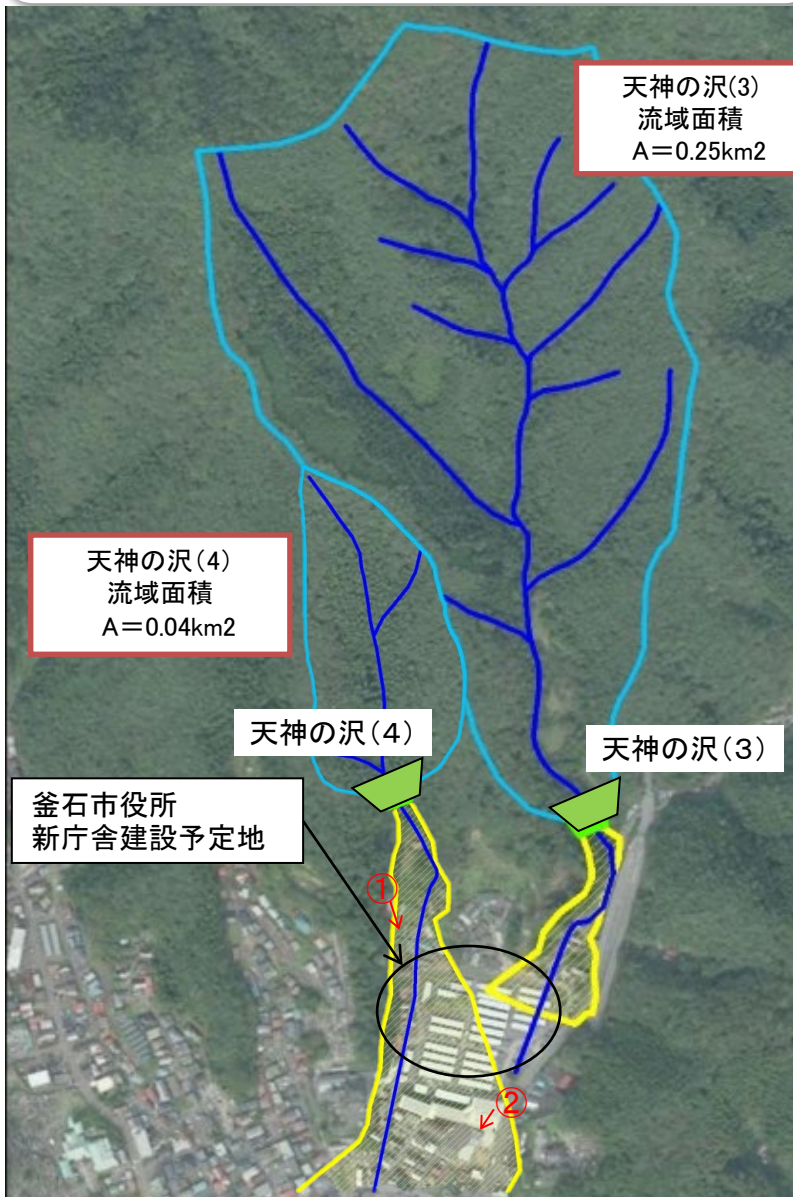
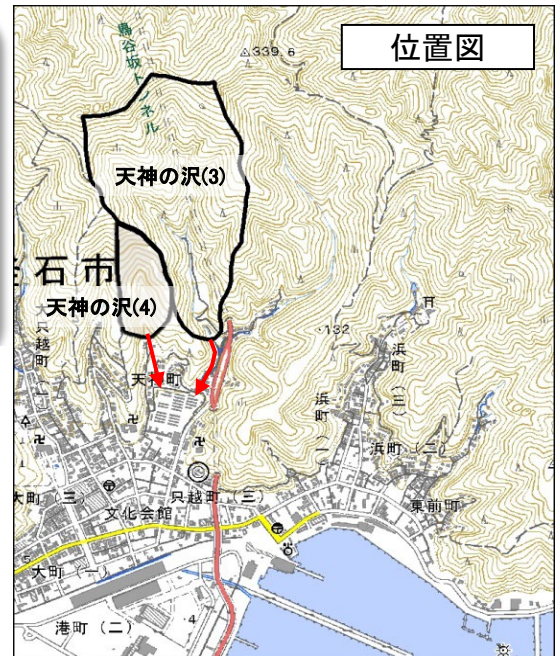
このため、土石流災害を未然に防止するため、早急に砂防施設を整備し、地域住民の安全確保を図るものです。

○計画概要

○保全対象

- 天神の沢(3) : 人家11戸、共同住宅1棟、国道50m、市道、橋梁1基(国道45号高架橋)、釜石市役所新庁舎(事業中)
- 天神の沢(4) : 人家147戸、市道、幼稚園、釜石市役所新庁舎(事業中)

- 全体事業費 : 8億円
 ○事業期間 : 令和2年度～令和6年度
 ○工事概要 : 砂防堰堤 2基



①釜石市役所新庁舎建設予定地



4-(7) 河川維持 河道掘削

河川海岸等維持修繕事業ほか

県では、河川の適切な維持を図るため、河道掘削や立ち木伐採について、着実に取り組んでいる。

河道掘削や立ち木伐採については、

- ①近年出水箇所では家屋浸水があった箇所、
 - ②河道断面が不足している箇所では資産集中箇所、
 - ③市町要望箇所、
 - ④その他必要と認められる箇所
- など、優先順位を勘案し工事を推進している。

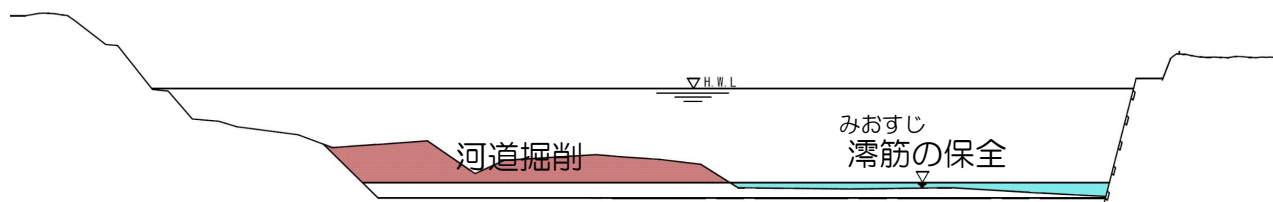
○対応状況写真（鶴住居川長持地区）



○対応状況写真（片岸川小白浜水門）



○河道掘削のイメージ



4-(8) 令和元年台風第19号に係る砂防事業

災害関連緊急砂防事業ほか

令和元年10月12日、13日発災の台風第19号により土石流が発生し、人家等への被害が大きかった13の溪流において、砂防堰堤などの土砂災害対策施設の整備を進めていきます。

- ・災害関連緊急砂防事業、砂防激甚災害対策特別緊急事業
 仮宿東の沢(2)、桑ノ浜沢(3)、桑ノ浜沢(5)、尾崎白浜の沢(6)、尾崎白浜の沢(11)
- ・砂防激甚災害対策特別緊急事業
 尾崎白浜の沢(4)、尾崎白浜の沢(8)、尾崎白浜の沢(9)、
 佐須の沢(3)(5)(6)、平田の沢(4)、吉里吉里の沢(3)
- ・通常砂防事業
 尾崎白浜の沢(2)、尾崎白浜の沢(3)



4 - (9) 県営住宅（災害公営含む）管理状況

○県営住宅（公営住宅及び災害公営住宅）の目的

- 公営住宅：所得が一定の基準以下の住宅に困っている方に賃貸し、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的に整備
- 災害公営住宅：東日本大震災津波により住宅を失った被災者の居住の安定を目的に整備

○概要

震災前は3団地297戸だった管内の公営住宅は、震災後に建設された災害公営住宅10団地531戸が平成30年度までに全戸が完成し、合わせて13団地828戸（戸数約2.8倍）となった。

この内、釜石市が9団地608戸、大槌町が4団地220戸となっている。

なお、被災者用に整備した災害公営住宅に空き室が生じた場合は、被災者用に一定の戸数を確保した上で、被災者以外も募集している。

R05.07時点

種別	所在地	団地名	棟数	戸数	
一般公営	釜石市	大平	1	58	
		日向	5	95	
		上平田	8	144	
一般公営計		3団地	14	297	
災害公営	釜石市	平田	1	126	
		片岸	1	17	
		松原	2	60	
		嬉石第1	1	52	
		嬉石第2	1	32	
		両石	1	24	
	釜石市計		6団地	7	311
	大槌町	大槌町	屋敷前	3	151
			大町	1	23
			安渡	1	23
上町			1	23	
大槌町計		4団地	6	220	
災害公営計		10団地	13	531	
合計		13団地	27	828	

上町アパート 23戸 (災害)
〔平成31年3月完成〕



屋敷前アパート 151戸 (災害)
〔平成27年10月完成〕



- 凡例 ● 災害公営 ● 一般公営
○ 50戸未満
○ 50戸以上100戸未満
○ 100戸以上

日向アパート 95戸 (一般)
〔昭和51年完成〕



大町アパート 23戸 (災害)
〔平成30年9月完成〕



両石アパート 24戸 (災害)
〔平成30年4月完成〕



安渡アパート 23戸 (災害)
〔平成30年12月完成〕



松原アパート 60戸 (災害)
〔平成29年3月完成〕



片岸アパート 17戸 (災害)
〔平成29年2月完成〕



嬉石第1アパート 52戸 (災害)
〔平成29年7月完成〕



嬉石第2アパート32戸 (災害)
〔平成29年7月完成〕

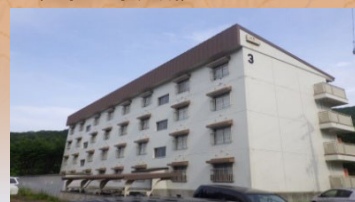


大平アパート 58戸 (一般)
〔平成16年完成〕

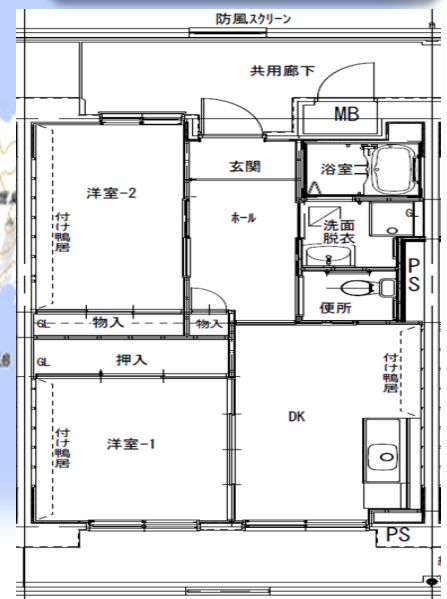


釜石市役所

上平田アパート 144戸 (一般)
〔昭和57年完成〕



平田アパート 126戸 (災害)
〔平成26年1月完成〕



2DKタイプ(平田アパート)

5-(1) 津波防災施設の復旧・整備

東日本大震災津波により防潮堤等の津波防災施設は、破堤や施設の沈下等の被害が生じた。被害を受けた津波防災施設については、背後の復興まちづくりと一体となって復旧・整備を進め、甲子川、鵜住居川、大槌川及び小鍬川は、令和3年3月に完成に至っている。

○完成した津波防災施設

甲子川水門



鵜住居川水門と片岸海岸防潮堤



小鍬川水門



大槌川水門



【参考】堤防の高さの設定

防潮堤や水門等の津波防災施設の高さは、以下の考え方により設定している。

- ① 数十年～百数十年の頻度で発生している津波を設計対象津波群として設定。一連の海岸や湾ごとに
 - ・過去の津波の痕跡高さの記録の整理
(例: 慶長地震、明治三陸地震、昭和三陸地震、チリ地震、2011年東北地方太平洋沖地震 等)
 - ・発生の可能性が高い地震等の津波シミュレーションの実施
(例: 想定宮城県沖地震 等)
- ② 設計対象津波群を対象に、海岸堤防によるせり上がりを考慮して設計津波の水位を設定。
- ③ この水位を前提に、海岸の利用や環境、景観、経済性、維持管理の容易性などを総合的に考慮して堤防の高さを設定。(所管省庁間や隣接海岸間で整合性を確保)

各施設の堤防の高さ

	甲子川水門	鵜住居川水門 片岸海岸防潮堤	小鍬川水門	大槌川水門
堤防の高さ	T. P. +6. 1m	T. P. +14. 5m	T. P. +14. 5m	T. P. +14. 5m

※ T. P. : Tokyo Peil (東京湾平均海面) の略で、標高の基準となる海水面の高さ。

5-2) 水門・陸閘自動閉鎖システム

東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、県では操作員の安全確保や津波から県民の生命と財産を守るため、操作の遠隔化、通信・電源の多重化を図り、衛星回線を活用し水門・陸閘の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めてきた。

当システムは、国が発表する津波注意報等（J-アラート）の受信を契機に、県内の各水門や陸閘に閉鎖の一斉命令を送信し、水門・陸閘の閉鎖や閉鎖にかかる安全警報等が自動で開始されるもの。

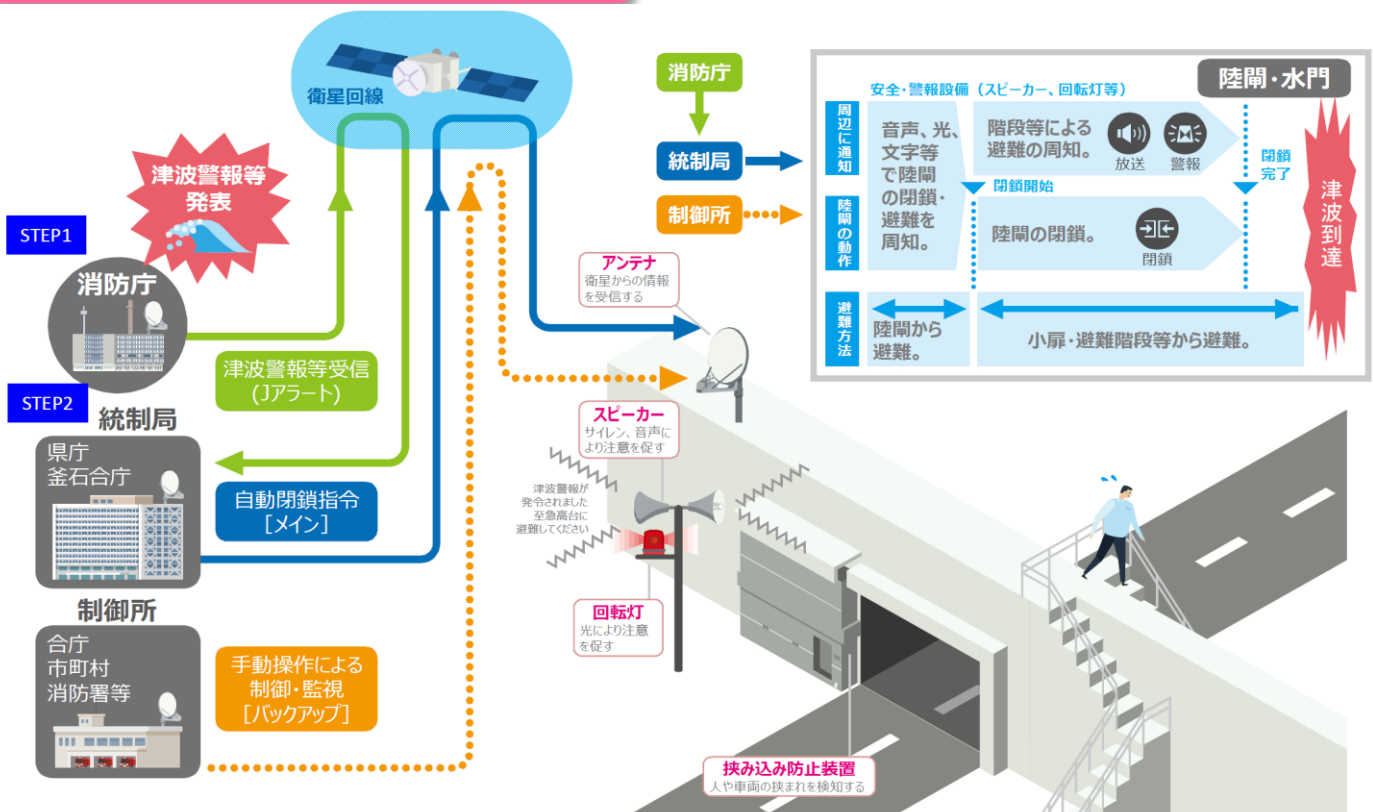
沿岸広域振興局土木部管内の水門・陸閘のうち、フラップゲートなどの操作不要のものを除く、25箇所が自動閉鎖の対象となり、令和3年度末までに運用を開始している。

令和4年1月15日に発生したトンガ諸島付近の海底火山噴火の影響により、翌16日に津波注意報が発表されたが、管内の対象水門・陸閘はすべて閉鎖したことを確認している。

○事業概要

- ・自動閉鎖システム対象箇所 214箇所（うち、釜石市内23箇所＋大槌町内2箇所＝25箇所）
- ・事業費 80億円（うち、沿岸広域振興局土木部管内10億円）
- ・事業年度 平成27年度～令和3年度（管内）

○システム概要



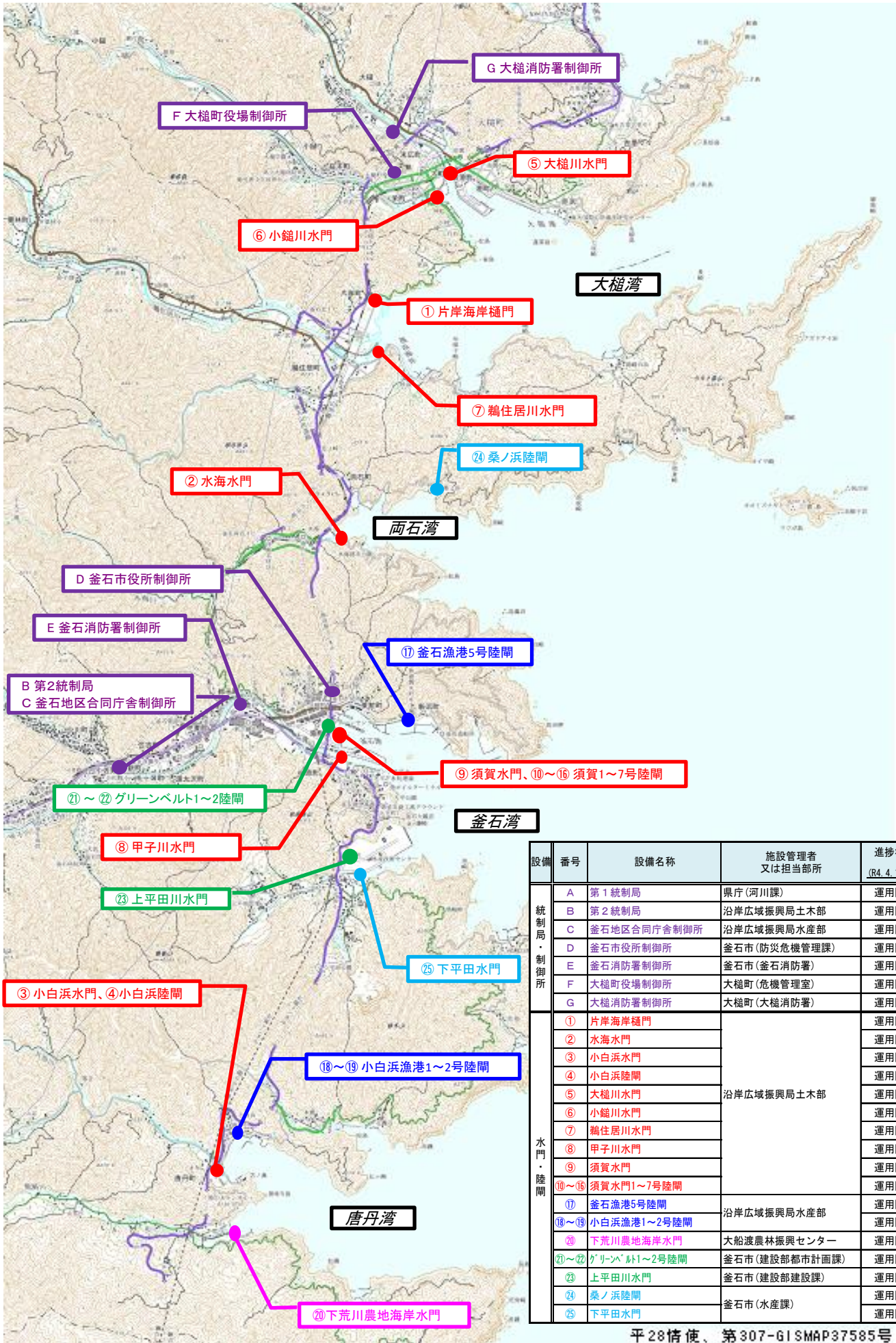
小白浜水門



須賀4号陸閘



○整備状況（釜石大槌地区）



設備	番号	設備名称	施設管理者 又は担当部所	進捗状況 (R4.4.1現在)
統制局・制御所	A	第1統制局	県庁(河川課)	運用開始
	B	第2統制局	沿岸広域振興局土木部	運用開始
	C	釜石地区合同庁舎制御所	沿岸広域振興局水産部	運用開始
	D	釜石市役所制御所	釜石市(防災危機管理課)	運用開始
	E	釜石消防署制御所	釜石市(釜石消防署)	運用開始
	F	大槌町役場制御所	大槌町(危機管理室)	運用開始
	G	大槌消防署制御所	大槌町(大槌消防署)	運用開始
水門・陸閘	①	片岸海岸樋門	沿岸広域振興局土木部	運用開始
	②	水海水門		運用開始
	③	小白浜水門		運用開始
	④	小白浜陸閘		運用開始
	⑤	大槌川水門		運用開始
	⑥	小籾川水門		運用開始
	⑦	鶴住居川水門		運用開始
	⑧	甲子川水門		運用開始
	⑨	須賀水門		運用開始
	⑩~⑯	須賀水門1~7号陸閘	運用開始	
	⑰	釜石漁港5号陸閘	沿岸広域振興局水産部	運用開始
	⑱~⑲	小白浜漁港1~2号陸閘		運用開始
	⑳	下荒川農地海岸水門	大船渡農林振興センター	運用開始
	㉑~㉒	グリーンベルト1~2号陸閘	釜石市(建設部都市計画課)	運用開始
	㉓	上平田川水門	釜石市(建設部建設課)	運用開始
㉔	桑ノ浜陸閘	釜石市(水産課)	運用開始	
㉕	下平田水門		運用開始	

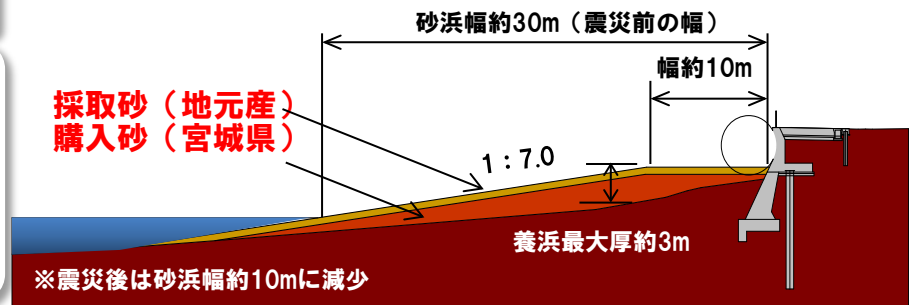
5-(3) 根浜海岸 砂浜再生

東日本大震災津波により消失した根浜海岸の砂浜について、平成29年度に人工的な砂浜再生が技術的に可能か検討を実施し、この結果「養浜が定着することが可能」と判断したことから、平成30年度から工事を進め、令和2年8月に完成した。

これらの検討及び事業実施にあたっては、「根浜海岸復興養浜技術検討委員会」や「根浜海岸砂浜再生懇談会」でのご助言・ご意見を頂いたもの。

○海岸施設の概要

- ・事業概要
 - 養浜整備 450m
 - 突堤 1基
 - 養浜量 約45,000m³
- ・事業費 約10億円

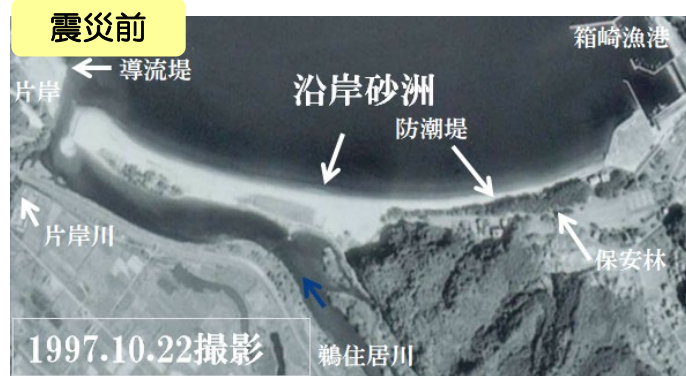
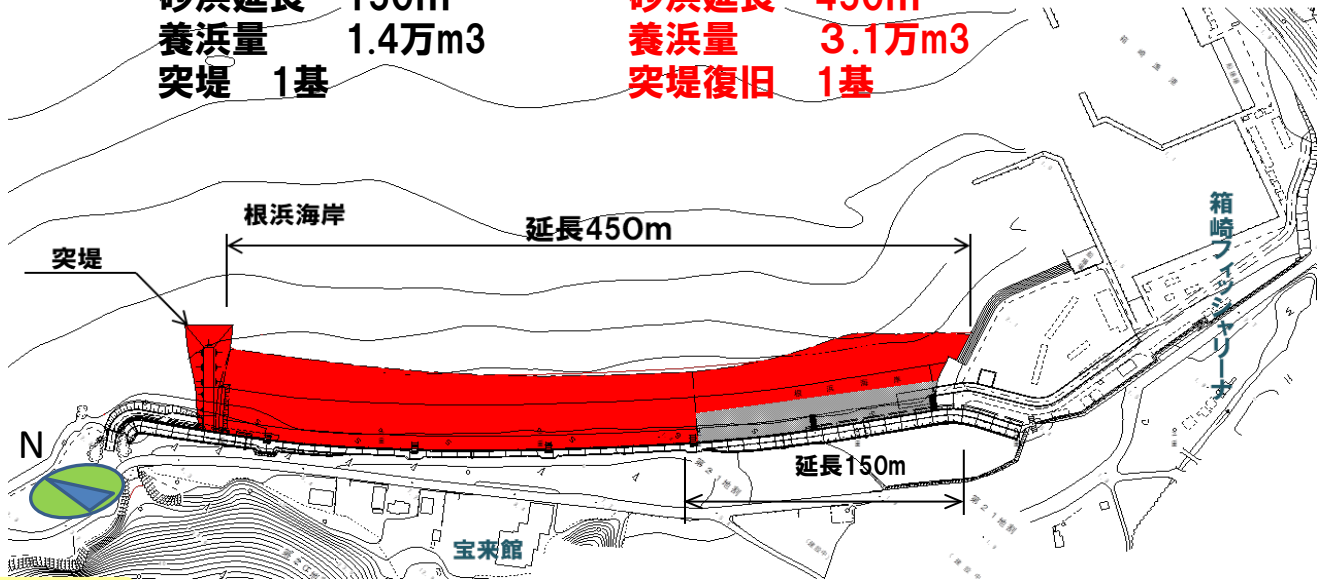


○その1工事（H30-R1）

砂浜延長 150m
養浜量 1.4万m³
突堤 1基

○その2工事（R1-2）

砂浜延長 450m
養浜量 3.1万m³
突堤復旧 1基

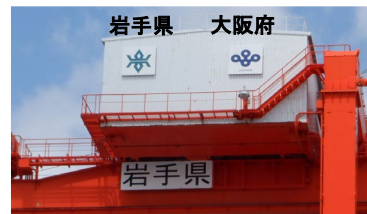


5-(4) 釜石港 ガントリークレーン

釜石港では、東日本大震災津波後の平成23年7月に国際フィーダー定期航路が就航し、コンテナ貨物取扱量が順調に伸びていたことや運航会社から外貿定期コンテナ航路の開設意向が示されたことから、ガントリークレーンの導入が喫緊の課題となっていた。

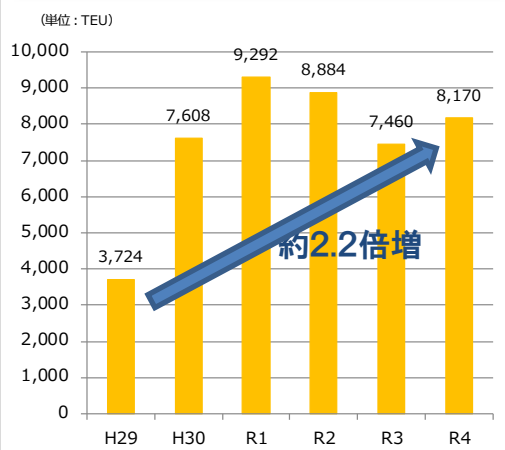
そうした中で、震災復興のために、大阪府から大船渡土木センターに派遣されていた応援職員の橋渡しによって、大阪府からのガントリークレーンの無償譲渡が実現し、平成29年9月に供用が開始された。

ガントリークレーンの導入によって、大型コンテナ船への荷役対応が可能となっており、本県の物流の更なる発展が見込まれる。



- ※参考
- 平成23年 釜石港国際フィーダーコンテナ定期航路開設（7月19日）
 - 平成29年 県営ガントリークレーン供用開始（9月23日）
釜石港外貿コンテナ定期航路開設（11月17日）
 - 平成31年 東北横断自動車道釜石秋田線（釜石～花巻間）全線開通（3月9日）
 - 令和元年 動物検疫港指定（8月26日）

○釜石港コンテナ取扱量



高さ（ブームアップ時）：約77m
 高さ（ブームダウン時）：約56m
 自重：約557t
 吊上荷重：44.5t
 定格荷重：38.0t/30.5t(コンテナ)

ガントリークレーン



2021年3月撮影



夜間荷役用照明の整備状況

増設したリーファーコンセント

広域振興局土木部等の所管区域と所在地一覧

